



岡山大学

OKAYAMA UNIV.

研究者の人事評価制度改革に向けて

岡山大学における教員個人評価制度

山本 進一

産学官連携深化ワーキンググループ(第4回) · 2016/11/14

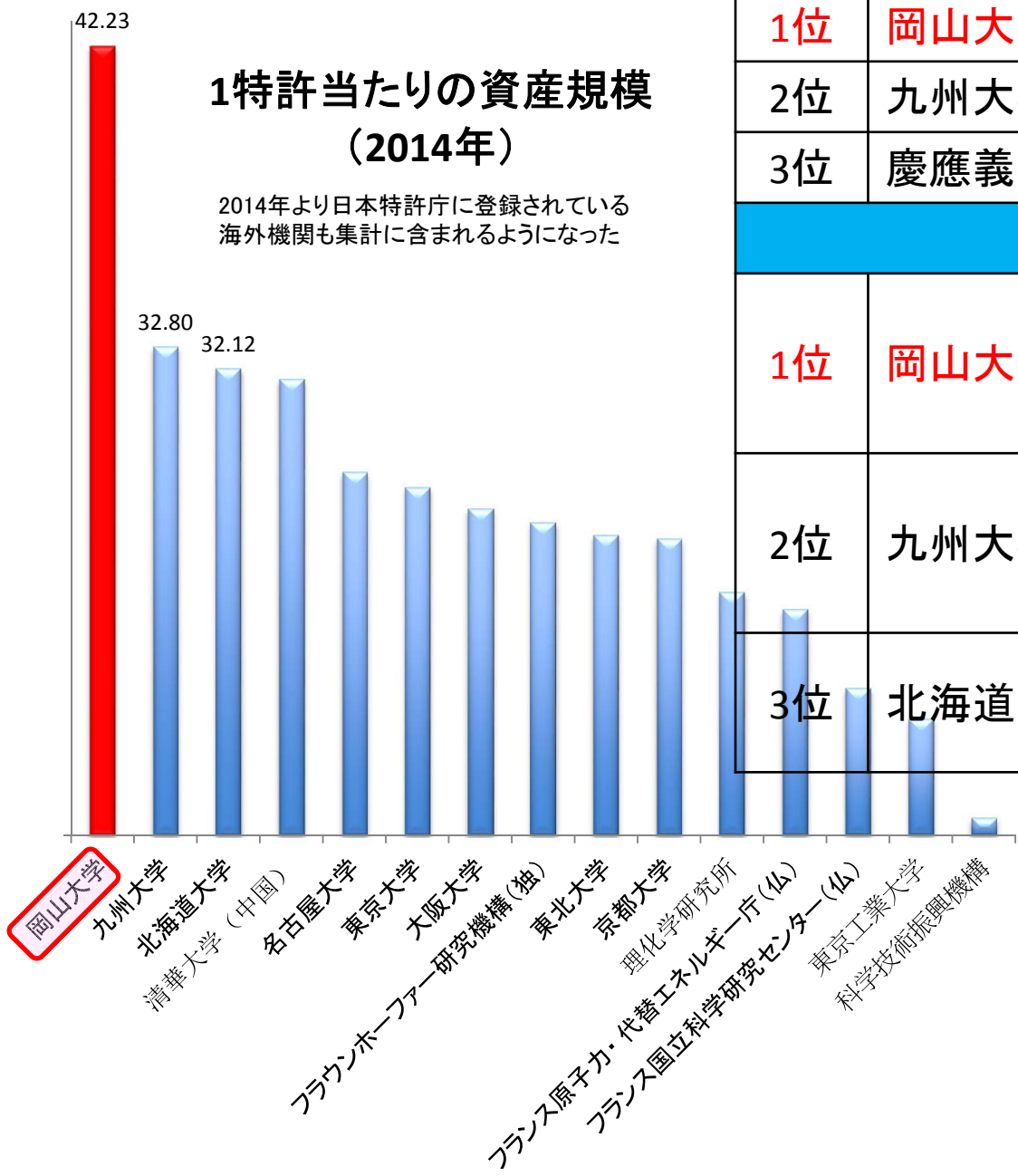
# 岡山大学の概要

- 理 念：高度な知の創成と的確な知の継承
- 目 的：人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築
- 経営目標：「美しい学都 岡山」を目指す
- 所在地：岡山市津島キャンパス、鹿田キャンパス  
(約63万m<sup>2</sup>)
- 組 織：本部事務局， 7 研究科， 11学部， 大学病院  
資源植物科学研究所（倉敷市）  
惑星物質研究所（鳥取県三朝町）  
異分野基礎科学研究所（岡山）
- 学 生 数：（大学院） 2,949人 （学部） 10,240人
- 職 員 数：（教育） 1,525人 （事務・技術） 1,234人
- 予算規模：約705億円

---

# 岡山大学の産学官連携





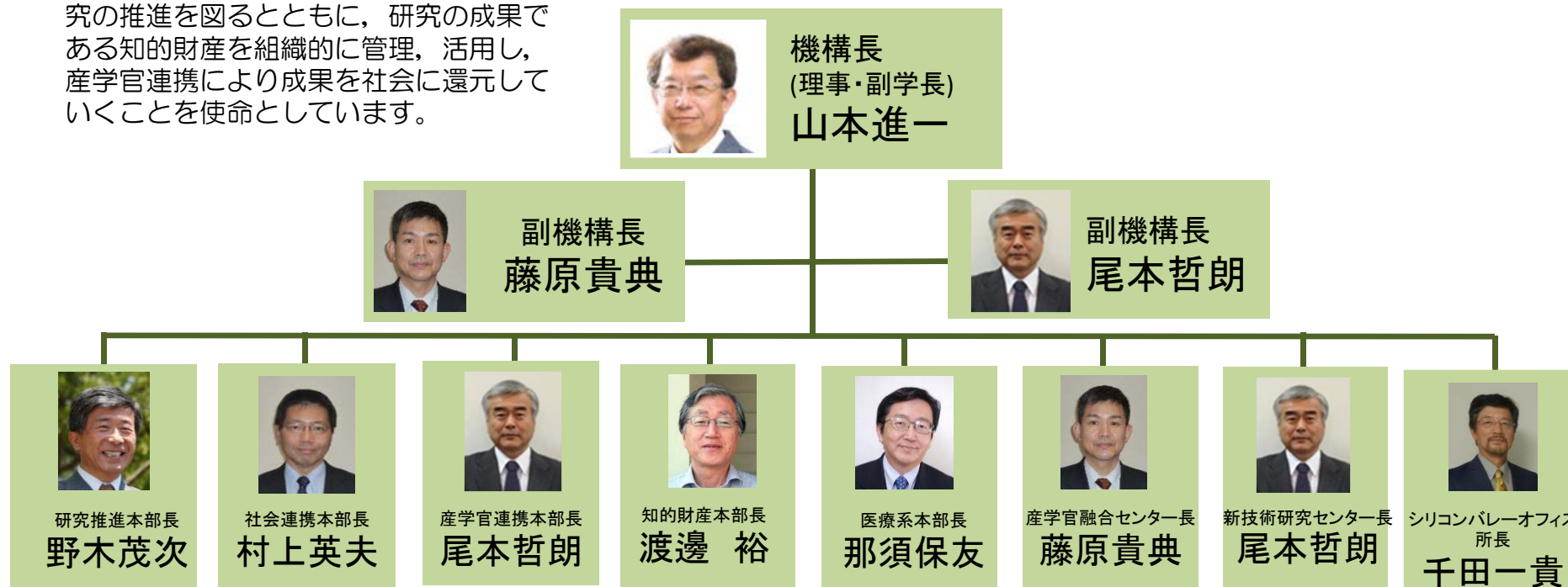
2012年		2013年	
1位	岡山大学	1位	岡山大学
2位	九州大学	2位	九州大学
3位	慶應義塾大学	3位	慶應義塾大学

2014年			
1位	岡山大学	運営費交付金 18,556 予算規模 68,553	岡山大学に 対しての規模
2位	九州大学	運営費交付金 42,537 予算規模 133,429	交付 <b>2.3倍</b> 予算 <b>2.0倍</b> 金額: 百万円
3位	北海道大学		

- ・集計以来**3年連続で1位**を確保・維持している。
- ・2014年は、海外研究機関も集計に加わったが、その価値は**海外勢よりも遥かに高い**。
- ・2位、3位の大学の規模(運営交付金、予算規模)と比べても半分の規模である岡山大学は価値ある特許資産を有する「**高質の大学**」である。

# 研究推進産学官連携機構

岡山大学研究推進産学官連携機構は、戦略的に大学における広範な領域の学術研究の推進を図るとともに、研究の成果である知的財産を組織的に管理、活用し、産学官連携により成果を社会に還元していくことを使命としています。



研究推進産学官連携機構



医療系本部



産学官融合センター



新技術研究センター



シリコンバレーオフィス



---

# 岡山大学の教員評価システム



## 2タイプの Faculty Staff

---

学術研究業績等を重視：

**Academic Professor**

研究論文、研究費、学位等、原則として公募制

産学官連携や社会貢献業績等を重視：

**Management Professor**

企業経験、ポジション、産学官活動等、一本釣りや推薦制

## 2. 教員活動評価の目的

- 教員の意識改革と教育研究活動等の活性化を促す。
- 業績・活動状況と評価結果概要を公表することにより，社会に対する説明責任を果たす。
- 評価結果を**給与等の処遇**に反映させる。



### 3. 教員活動評価制度の概要

対象者：すべての**常勤教員**

(教授・准教授・講師・助教・助手)

評価実施単位：教員が所属する各研究科・全学センター等

※ただし、より実質的な評価を行うために細分化の必要がある場合は、各部局で評価実施単位を決定できる。

### 3. 教員活動評価制度の概要

## 評価の実施等

評価の実施 : 毎年度

評価領域と評価対象期間 :

以下の4領域に分類し、評価する。

- 教育 : 前年度1年間
- **研究** : (文系) 過去5年間 (暦年)  
(理系) 過去3年間 (暦年)
- 社会貢献 : 前年度1年間  
(医療系キャンパスでは、社会貢献・診療)
- 管理・運営 : 前年度1年間

### 3. 教員活動評価制度の概要

## 評価項目

部局長は、評価実施単位ごとに、各評価領域について評価項目を定める。

### 基本的な評価項目

#### 【教育活動】

- (1) 学部・大学院教育（授業担当科目，論文指導）
- (2) 学生による授業評価アンケート結果
- (3) (2)を踏まえた教育方法の改善等の取組み
- (4) FDに取り組む姿勢
- (5) 教育活動に関する受賞
- (6) 学生支援
- (7) 国際共同による教育
- (8) 外国人留学生の受入
- (9) その他

### 3. 教員活動評価制度の概要

#### 基本的な評価項目

#### 【研究活動】

- (1) 研究発表(学術論文, 著書等)
- (2) 学会等における研究発表
- (3) 芸術・建築・体育系分野の業績
- (4) 報道機関を通じた研究発表
- (5) 外部研究費の導入実績
- (6) 発明・工業所有権等の取得状況
- (7) 学会賞等の受賞状況
- (8) 産学官連携関係
- (9) 国際共同による研究
- (10) 外国人研究者の受入
- (11) 外国研究機関における研究従事
- (12) その他

### 3. 教員活動評価制度の概要

基本的な評価項目

#### 【社会貢献活動\*】

- (1) 公開講座等
- (2) 生涯学習支援
- (3) 国際貢献
- (4) 公的な機関・審議会・委員会等への参画
- (5) 病院等における診療活動及び医療支援
- (6) その他

\*医療系キャンパスでは、社会貢献・診療活動

### 3. 教員活動評価制度の概要

基本的な評価項目

#### 【管理・運営活動】

- (1) 管理職の実績
- (2) 全学的な委員会等における貢献
- (3) 所属部局における管理・運営への貢献
- (4) 入試関連業務
- (5) 情報公開
- (6) その他

## 【産学官連携項目の評価細目】

- 1) 医療展示会、知恵の見本市等の研究発表会への出展、発表
- 2) 受託・共同研究、特許出願等を見据えた、企業及び自治体担当者等との打合せ、勉強会、面談、技術指導、意見交換
- 3) 特許出願の準備
- 4) 外部資金無しで開始した受託・共同研究の準備
- 5) 外部資金有りの受託・共同研究や特許の実績であっても、併せて産学官連携として評価を受けることも可能
- 6) 受託・共同研究終了後又は特許取得後のアドバイスや技術指導

### 3. 教員活動評価制度の概要

#### 配点基準及び段階評価基準

- 部局長は、評価実施単位ごとに、配点基準（各評価項目の最低基準と加点・減点基準）を定める。
- 部局長は、配点基準により算出された点数による段階評価基準を定める。
- 部局長は、配点基準及び段階評価基準を定めるに当たり、**本学の目標及び教員活動評価の目的**に沿うよう配慮し、また、**当該部局の目標、専門分野の特性等**を考慮する。



### 3. 教員活動評価制度の概要

#### 評価の実施①

- 部局長は、評価実施単位ごとに、「教員活動評価調書」(別紙1)及び「職名別領域の重み」(別紙2)を作成する。
- 各教員は、毎年度、**岡山大学情報データベースシステム(情報DBシステム)**に自分の活動状況を入力し、それに基づき、**教員活動評価調書**に記入し、当該年度の9月末日までに部局長に提出する。
- 部局長は、重みについて、特別な事情がある場合には教員と協議の上、個別に設定を変更できる。

### 3. 教員活動評価制度の概要

#### 要項別紙2

#### 職名別領域の重み(参考例)

領域	教授	准教授	講師	助教	副学部長等
教育	0.30	0.25	0.25	0.25	0.25
研究	0.25	0.40	0.40	0.50	0.10
社会貢献	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
管理・運営	0.25	0.15	0.15	0.05	0.45
自己裁量	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10

※1 自己裁量は、教育、研究、社会貢献、管理・運営のいずれかに自由に振り分けることができる。

※2 教員の設定した重み付けについて、部局長の裁量により、教員と協議の上、設定を変更することができる。

- 実際の職名別領域の重みは、各部局の特性をふまえて部局(評価単位)で決定
- 領域の重み: 職名等毎に定めたエフォートの領域への配分比

### 3. 教員活動評価制度の概要

#### 評価の実施②

部局長は、評価実施単位ごとに定めた段階評価基準により、領域別評価及び総合評価を行う。

##### 【領域別評価】

- 3 水準を上回っている
- 2 水準に達している
- 1 改善を要する

##### 【総合評価】

- 4 特に優れている
- 3 優れている
- 2 適切
- 1 問題あり

### 3. 教員活動評価制度の概要

#### 評価結果の取扱い

- 部局長は、各教員に対して「教員活動評価結果通知・報告書」により領域別評価及び総合評価の結果を通知する。
- 部局長は、教員が自分の評価結果に関して意見を申し出る機会を設け、必要な説明等を行う。
- 部局長は、当該部局における評価結果を「教員活動評価結果一覧表」に取りまとめ、教員活動評価結果通知・報告書とともに、当該年度の12月末までに学長に報告する。

### 3. 教員活動評価制度の概要

- 部局長から教員へ適切な指導及び助言を行い、活動の一層の向上又は改善を促す。
- 学長から部局長へ適切な指導及び助言を行い、組織の一層の発展を促す。
- 総合評価「1」(活動状況に問題のある教員)の教員, その他必要と認められる教員に対しては, 部局長が面談して適切な指導及び助言を行い, 活動改善計画書を提出させる。
- 部局長は, 活動改善計画書を取りまとめ, 当該年度末までに学長に報告する。

### 3. 教員活動評価制度の概要

#### 評価結果等の公表

- 評価結果は、大学全体として集計したものを、次年度の5月末日までに公表する。
- 岡山大学情報データベースシステムに入力された情報は、原則として本学ホームページ(研究者総覧)で公開する(本人が非公開設定にしている情報を除く)。
- 公開対象は、過去3年度分の情報とする。

### 3. 教員活動評価制度の概要

- 随時(多くの教員は7月～9月)、岡山大学情報データベースシステム(情報DBシステム)に諸活動を入力(9月末日締め切り)
- 部局長:部局の自己評価委員会(事務)から、**教員活動評価調書**作成依頼がメールで届く **教員活動評価調書**は情報DBシステムからダウンロード  
入力の手引き、評価コード表、重みの表
- 当該年度の変更点、留意事項を説明するための説明会を2回実施
- 評価コードをファイル名として評価調書(入力済)を情報DBシステムにアップロード又はメール添付により事務に提出(9月末日締め切り)
- 部局の自己評価委員会(事務)の集計、部局長査読、評価結果確定の会議
- 10月:領域別評価、総合評価結果の通知(往復書簡形式)
- (もしあれば)被評価者からの意見を返す。
- **12月, 1月:給与査定結果を、給与明細で通知される。**

## 教員側で実施:DB入力と教員活動調査書の記入

岡山大学情報データベースシステム  
Okayama University Integrated Information Database System

研究者総覧 | ReaD | マニュアル | Q&A

氏名 : システム管理者  
ターゲット : 山田 雅夫

教職員選択 組織選択

データ個別登録・参照  
★教職員基礎データ  
★教職員集計データ  
ファイル管理  
★ファイル管理

帳票出力  
★研究業績リスト作成  
ダウンロード  
★教職員基礎データ  
★教職員集計データ

システム管理  
★個人環境設定

Information  
本システムへのデータ入力可能期間、毎年9-10月にデータ入力作業負担が集中します。

- ・岡山大学研究者総覧として公開
- ・researchmapにデータ提供
- ・教員活動評価調査書のエビデンス  
(調査書エクセルファイルにエビデンスシートとして添付されてダウンロード)
- ・第三者評価(法人評価, 機関別認証評価)のためのデータとして利活用



# 教員活動評価調書の例示 上半分 医学系・歯学系・保健学系共通

別紙1		教員活動評価調書(医歯保系:大学院、病院籍共通) 太い線で囲んだセル(ピンクの下地)に入力下さい。 <b>まず記入ください。→</b>		岡大病院での診療活動の有無?		重み自己裁量 0.1はどこへ?				
領域	分類	評価項目	自己申告	最低基準** (各領域毎に設定, 判定は素点合計にて)	加減点基準 自己申告, 評価委員会 共通	加減点	重み (B)	評点 (素点計×B)		
								勤勉手当	昇給	
教育 (前年度)	授業担当他	・授業担当科目(学部、大学院、臨床指導ともに)		(6コマ)	1コマ1点		↓指定に従って入力下さい。		*	
		90分×15回=1コマ, 90分=0.07コマ, 学部・大学院は時間割に準拠, ティーチング入力分のみ加算								
		・年間の授業担当責任者として係わる科目		なし	1科目2点、教養科目3点				*	
	論文指導 (人/年)	・教育企画委員等 <sup>&amp;</sup>		なし	2点			*	*	
		・修士論文 (学部卒論)		なし	1人2点(卒論1点)			*	*	
	論文作成年に限る#	・博士論文		なし	1人4点			*	*	
		学生支援	・学級担任 <sup>&amp;</sup> , 院生勧誘・支援, 留学生支援, 就職支援, 課外活動		なし	1件1点			*	*
	FDと授業改善	・学生による授業評価		総合評価3	3点台:1点, 4点台2点			*	*	
		・教育方法の改善等		主要科目につき実施	主要科目につき記入:1点			*	*	
		・FDワークショップ(指導医講習会を含む)参加等 <sup>&amp;</sup>		なし	1件1点				*	
小計		昇給評価素点の小計→		0 (6点)	勤勉手当素点の小計→	0	0			
研究 (前3年の 積算)	著書、論文(総説,症 例発表を含む)	・著書 分担については1件1点 欧文1点加減		なし	1冊3点			*		
		・論文(1件邦文1点,欧文2点,欧文査読誌筆頭*4点)		(2件)	*コレスポネンセス含む			*		
	学会等 学会活動等、役割	・招待講演(国際学会1点加減)筆頭者、発表者に限る		なし	1件2点			*		
		・学会発表(国際学会1点加減)共著者含む		(2件)	1件1点			*		
		・報道機関を通じた発表(全国紙・放送1点加減)		なし	1件1点			*		
		・大会長、プログラム委員長(国際学会2点加減)		なし	1件3点		*	*		
		・学会運営(責任者2点,補助1点) 論文査読0.5点/件		なし				*		
	外部資金	・科研費(厚生科研等を含む)申請ポイント*代表者に限る		0 (3件)	1件1点(*別表連動)		*	*		
		・科研費(厚生科研等を含む)採択ポイント*		0	1件1~3点(*別表連動)		*	*		
		・その他外部資金等受入ポイント*		0	1件1~2点(*別表連動)		*	*		
	発明・特許	・出願件数(新規)		なし	1件1点			*		
		・国際出願件数(新規)		なし	1件2点			*		
		・特許件数(新規)		なし	1件4点		*	*		
表彰受賞	・学術上の表彰の受賞(国際的なもの:2点加減) <sup>&amp;</sup>		なし	1件2点		*	*			
産学連携	・産学連携関係		なし	1件2点			*			
小計		昇給評価素点の小計→		0 (7点)	勤勉手当素点の小計→	0	0			

## 教員活動評価調書の例示 下半分 医学系・歯学系・保健学系共通

管理 ・ 運営等 (前年度)	管理職	・副部局長等の実績(専攻長含む)		なし	副部局長・学科長6点、 専攻長4点			*	*	
	全学貢献	・全学的な委員会等(委員長、座長は2点加点)		なし	1件3点			*	*	
		・全学的役割担当(衛生管理者、作業主任者、相談員等)		なし	1件1点			*	*	
	部局貢献	・所属部局における委員会等 <sup>&amp;</sup> (委員長は2点加点) <sup>#</sup>		なし	1件1点			*	*	
		・所属部局/分野等における役割貢献(責任者は1点加点) <sup>#</sup>		1件	1件1点			*	*	
	入試業務貢献	・入試関係業務の役割(責任者は1点加点)		なし	1件1点				*	
小計		昇給評価素点の小計→		0	(1点)	勤労手当素点の小計→		0	0	
社会貢献 ・ 診療 (前年度)	社会貢献	・公開講座等の講演者(所属分野内のみは除く)		なし	1件1点			*	*	
		・生涯学習、社会人教育等 <sup>&amp;</sup> の講師(所属分野内のみは除く)		なし	1件1点			*	*	
		・公的機関審議会委員等(委員長は1点加点)		なし	1件1点			*	*	
		・学術誌編集委員(編集長、国際誌は各1点加点)、全国学会理事等(理事長、国際学会は各1点加点)		なし	1件1点			*	*	
		・国際貢献		なし	1件2点			*	*	
	診療 臨床系教員 岡大病院での貢献	エフォート: 全て(週40時間を基準として)をつぎ込んだ場合を10点 8割: 8点 6割: 6点...			(4点)					*
		診療科長による評価(項目毎: 卓越10点、優秀8点、普通4点)* 診療科長等については、病院長等が評価する。卓越は構成員の5割以内、優秀は9割以内とする。			(4点)	診療全般			*	*
小計		昇給評価素点の小計→		0	(12点)	勤労手当素点の小計→		0	0	
		昇給評価素点の合計→		0	**	勤労手当素点の合計→		0	0	
自己アピール (評価対象期間、質的要素、組織目標&への貢献)	1: 教育、研究、社会貢献、管理運営 250字以内					部局長評価の重点項目: (仮)教育のグローバル化	↑重み積算: 勤労手当用	↑重み積算: 昇給評価用		
	2: 診療(臨床教育・指導を含む、100字以内)									
自己アピール 部局長評価	診療以外の領域	活動票入力状況不十分の場合は減点 部局長判断上限領域毎に5点						*	*	
	診療	活動票入力状況不十分の場合は減点 部局長判断上限5点						*	*	
部局長加点								*	*	
総合計		昇給評価素点の総合計→		0	**	勤労手当素点の総合計→		0	0	
個人番号						重みの合計が1でない場合Fが表示されます→		F	5.0	45
所属・専攻分野(診療科)・職名						# 実際担当した者は加点対象としてよい。		研究: 助教中央値		
氏名						& 各系の実情に合わせて補足説明を加える。各系の組織目標を部局長が説明する。				
評価コード: 名簿参照						** 昇給: 臨床系以外: 14点, 臨床系26点, 勤労手当: 臨床系以外: 4点, 臨床系12点				

## 【連携機構】段階評価の基準

### ○領域別評価・総合評価の段階評価基準

#### 領域別評価

区 分	教 育	研 究 (教 授)	研 究 (准教授)	社会貢献	管理・運営
3:水準を上回っている	0.4以上	8.0以上	4.0以上	6.0以上	8.0以上
2:水準に達している	0.2以上0.4未満	4.0以上8.0未満	2.0以上4.0未満	3.0以上6.0未満	4.0以上8.0未満
1:改善を要する	0.2未満	4.0未満	2.0未満	3.0未満	4.0未満

#### 総合評価

区 分	教 授	教 授	准教授	准教授
	(産学官融合センター以外)	(産学官融合センター)	(知的財産本部)	(産学官連携本部)
4:特に優れている	機構長が特に認めた場合	機構長が特に認めた場合	機構長が特に認めた場合	機構長が特に認めた場合
3:優れている	14.0以上	22.0以上	14.0以上	18.0以上
2:おおむね適切	7.0以上14.0未満	11.0以上22.0未満	7.0以上14.0未満	9.0以上18.0未満
1:問題あり	7.0未満	11.0未満	7.0未満	9.0未満

### ○給与査定(勤勉手当・昇給)のD査定基準

区 分	教授(産学官融合センター以外)	教 授	准教授
	准教授(知的財産本部)	(産学官融合センター)	(産学官連携本部)
勤勉手当	4.0未満	5.0未満	4.5未満
昇 給	7.0未満	11.0未満	9.0未満

## 職名別領域の重み

### 【臨床系以外】

領域	教授 (産学官融合センター以外)	教授 (産学官融合センター)	准教授 (知的財産本部)	准教授 (産学官連携本部)	助教
教育	0.00	0.10	0.00	0.00	
研究	0.00	0.20	0.00	0.10	
社会貢献	0.20	0.30	0.20	0.20	
管理・運営	0.70	0.30	0.70	0.60	
自己裁量	0.10	0.10	0.10	0.10	

※1 自己裁量は、教育、研究、社会貢献、管理・運営のいずれかに自由に振り分けることができる。

※2 教員の設定した重み付けについて、部局長の裁量により、教員と協議の上、設定を変更することができる。

### 【臨床系】

領域	教授	准教授	講師	助教	副病院長等
教育					
研究					
社会貢献 (診療を含む)					
管理・運営					
自己裁量					

※1 自己裁量は、教育、研究、社会貢献(診療を含む)、管理・運営のいずれかに自由に振り分けることができる。

※2 教員の設定した重み付けについて、部局長の裁量により、教員と協議の上、設定を変更することができる。

# 教員活動評価調書

領域	分類	評価項目	自己申告 (件数等)	評価者					
				配点基準		素点 (A)	重み (B)	評点(A×B) (給与査定)	
				最低基準	加点・減点基準			(勤勉手当)	(昇給又は業績年俸)
教育 (前年度)	学部教育	1. 授業担当科目(学部、大学院ともに) ・週当たり授業担当コマ数		なし	1コマ1点	0			○
	大学院教育	2. 論文指導 ・卒業論文		なし	1人0.5点	0			○
		・修士論文		なし	1人1点	0			○
	FD	3. 学生による授業評価		なし	1件1点	0		○	○
		4. 教育方法の改善等		なし	1件1点	0		○	○
		5. 教材作成		なし	1件3点	0		○	○
自己アピール				部局長判断 上限2点			○	○	
	小計					0	0	0	0
研究 (自然系:前3年、人文系:前5年)	研究発表等	1. 著書、論文 ・著書		なし	1冊2点	0			○
		・論文		なし	1件1点	0			○
	学会等	2. 学会活動等、役割 ・座長、招待講演		なし	1件2点	0		○	○
		・学会発表		なし	1件1点	0			○
		・報道機関を通じた発表		なし	1件1点	0			○
		・研究会(学会の部会とは別)		なし	1件1点	0			○
	外部資金	3. 外部研究費の導入実績(科研費、受託研究、共同研究、その他) ・申請件数		なし	1件1点	0			○
		・採択件数		なし	1件2点	0			○
	発明・特許	4. 発明、特許等 ・出願件数		なし	1件1点	0			○
		・国際出願件数		なし	1件1点	0			○
		・特許件数		なし	1件2点	0			○
表彰受賞	5. 学術上の表彰の受賞		なし	1件5点	0		○	○	
自己アピール				部局長判断 上限2点			○	○	
	小計					0	0	0	0

# 教員活動評価調書

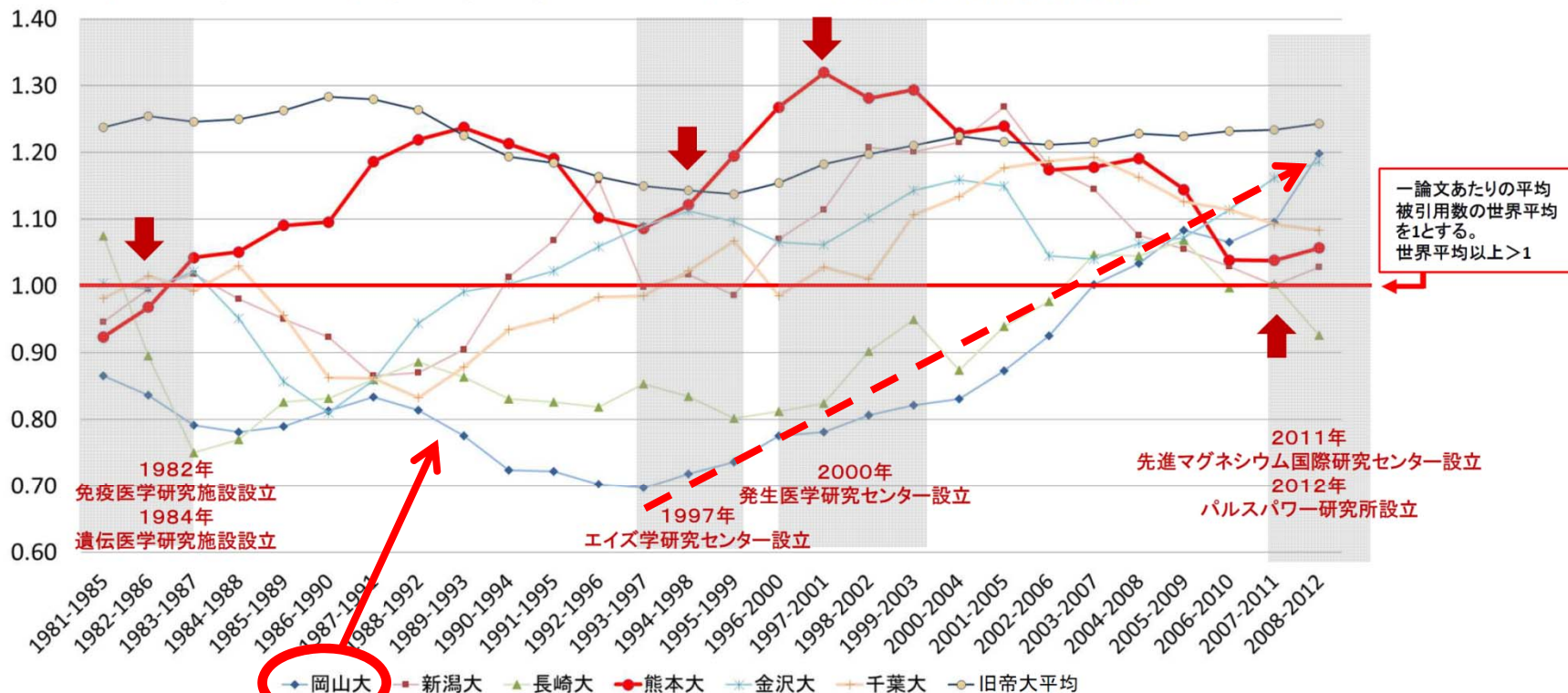
領域	分類	評価項目	自己申告 (件数等)	評価者						
				配点基準		素点 (A)	重み (B)	評点(A×B)		
				最低基準	加減点基準			(給与査定)		
								(勤勉手当)	(昇給又は業績年俸)	
社会貢献 (前年度)	産学官連携	1. 産学官連携の推進		なし	1件2点	0		○	○	
		2. 技術相談			1件0.5点					○
	社会連携	3. 社会連携の推進		なし	1件2点	0		○	○	
	大学間連携	4. 大学間連携の推進			1件2点			○	○	
	公開講座等	5. 公開講座		なし	1講座2点	0			○	
		6. 社会人教育等		なし	1件2点	0			○	
	国際化・国際貢献	7. 国際化・国際貢献に関する取組		なし	1件2点	0			○	
		8. 公的機関審議会委員等		なし	1件1点	0			○	
	自己アピール				部局長判断 上限3点				○	○
	小計					0		0	0	0
管理・運営 (前年度)	管理職	1. 機構の役職の実績		なし	副機構長2点、 その他1点	0			○	
	全学貢献	2. 全学委員会の委員等			1件1点	0			○	
		3. 全学的役割担当(相談員等)		なし	1件2点	0			○	
		4. 共同研究・外部資金獲得支援等		なし	申請1件1点、 採択1件2点	0	○		○	
		5. 発明・特許の権利化支援			出願1件1点、 特許化1件2点				○	
		6. 技術移転の達成		なし	1件2点	0			○	
		7. 研究環境の整備		なし	1件2点	0			○	
	部局貢献	8. 大学発ベンチャー支援に関する取組		なし	1件1点	0			○	
		9. 機構における委員会委員等			1件1点	0			○	
		10. 大学・機構の情報発信・情報提供等			1件1点				○	
		11. 機構業務関連資格の取得(弁理士等)		なし	1件3点	0			○	
	自己アピール				部局長判断 上限2点			○	○	
小計						0	0	0	0	
合計								0	0	
自己アピール欄は、部局長判断点(上限20%)を記入してください。部局長の目標に対する貢献、教育・研究業績等の質的卓越性を記入してください。										
総合計								領域別評価評点	総合評価評点	

# 主要大学の論文の相対被引用数

## 旧六大学の科研費と論文の状況③

旧六大学には高い潜在能力がある！

旧六大学および旧帝大系大学平均との比較 — 相対被引用数の実績 —



\*相対被引用数とは、1文献あたりの被引用数を、同じ出版年・同じ分野)同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。相対比引用数が1以上ということは、引用された割合が世界平均以上ということの意味する。

**高い潜在能力を持つ旧六大学をはじめする地方大学の研究を持続させることが、日本の研究力向上につながる**

# 岡山大学研究論文パフォーマンス時系列での変化(その1)

論文の構成:岡山大学

整数カウント法	期間	全体	1.化学	2.材料科学	3.物理学	4.計算機・数学	5.工学	6.環境・地球科学	7.臨床医学	8.基礎生命科学
論文数 (5年合計値)	PY1999-2003年	6,014	812	191	571	125	168	209	1,772	2,138
	PY2004-2008年	6,815	775	208	848	168	236	292	1,857	2,372
	PY2009-2013年	7,102	759	190	1,073	139	189	335	2,002	2,353
論文数 世界シェア (千分率)	PY1999-2003年	1.6	1.7	1.1	1.2	0.6	0.6	1.0	2.2	1.9
	PY2004-2008年	1.5	1.3	0.9	1.5	0.6	0.6	1.0	1.9	1.8
	PY2009-2013年	1.2	1.0	0.6	1.8	0.4	0.4	0.9	1.6	1.4
Top10%補正論文数 (5年合計値)	PY1999-2003年	377	60	22	35	3	12	22	95	127
	PY2004-2008年	548	45	15	112	6	19	17	151	183
	PY2009-2013年	806	44	8	264	6	9	25	195	247
Top10%補正論文数 世界シェア (千分率)	PY1999-2003年	1.0	1.2	1.3	0.8	0.2	0.4	1.0	1.2	1.2
	PY2004-2008年	1.2	0.7	0.6	2.0	0.2	0.5	0.6	1.6	1.4
	PY2009-2013年	1.4	0.6	0.3	4.3	0.2	0.2	0.7	1.5	1.5

論文の特徴:岡山大学

整数カウント法	期間	全体	1.化学	2.材料科学	3.物理学	4.計算機・数学	5.工学	6.環境・地球科学	7.臨床医学	8.基礎生命科学
産学連携論文率	PY1999-2003年	6.8%	7.4%	10.5%	9.1%	7.2%	16.7%	3.3%	3.2%	8.0%
	PY2004-2008年	7.4%	7.7%	9.6%	5.2%	5.4%	17.4%	5.5%	4.2%	9.7%
	PY2009-2013年	6.0%	6.3%	11.6%	3.5%	5.0%	20.6%	3.0%	5.4%	6.5%
国際共著率	PY1999-2003年	17.0%	11.6%	16.8%	19.1%	18.4%	12.5%	36.4%	14.3%	19.1%
		米(46%) / 中(10%) / 独(7%) / 英(7%) / 加(6%)								
	PY2004-2008年	24.7%	16.5%	21.2%	40.8%	17.9%	14.0%	44.9%	22.3%	23.2%
		米(48%) / 独(15%) / 英(15%) / 韓(14%) / 加(14%)								
	PY2009-2013年	31.1%	21.1%	20.0%	63.0%	26.6%	22.8%	50.4%	20.9%	27.3%
		米(52%) / 独(29%) / 中(28%) / 英(28%) / 伊(26%)								

出典:NISTEP調査資料-243「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」



ご清聴ありがとうございました。